

防空訓練 9年7月を皮切りに毎年7月に行われた。模擬焼夷弾や発煙筒が使用され、市民の緊張感はいやがうえにも高まった。(9年熊野防護分団の訓練) 写真上、中



本土決戦、へ堺市国民義勇隊の結成 20年に入ると、マリアナ基地を発進するB29、さらに艦載機による本土空襲が本格化、戦局が絶望的になってきた。大本営の要請により義勇兵役法が定められ、市でも4月5日市庁舎前で、市長が隊長となって「皇土防衛に一切を捧げ、もって神州護持に任ぜんとす。」と決議、国民学校初等科修了以上男子は65歳以下、女子は55歳以下根こそぎ動員体制で義勇隊が結成された。



松の「応召」、戦況の悪化とともに鉄材不足をきたし木造船増産がはかられることになった。浜寺公園の名松も次々と伐採された。(18年6月下旬) また、三宝海岸一带に10余の木造船所が設立され、市内の木業者らを集め、輸送船・上陸用舟艇・魚雷艇の建造があいついだ。



金属供出 戦局の悪化とともに物資供出にいつそう拍車がかげられた。「銅鉄なき街へ」「家庭から金属をなくしましょう」等々と呼びかけられ、とくに窓格子・柵などが狙われた。17年11月6日市と翼賛会支部共催の「銅鉄回収の夕」(大浜公会堂)が開催された。

休閒地耕作 食糧不足の深刻化にともない学校・工場・公園・官公庁から一般家庭までいたるところ、ジャガイモ・サツマイモ・野菜・豆類や麦などが栽培された。18年春には、その面積約120町歩(ヘクタール)に達したが、後半には航空機用潤滑油を得るためにとヒマ栽培が要求され、自由な作付もできなくなる一方、防空迷彩になるとして屋上から家屋周辺に至るまで寸土を余さず活用することが要請された。

